



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道釧路沖で採集された稀種テングギンザメRHINOCHIMAERA PACIFICA (MITSUKURI)について
Author(s)	小林, 喜雄; KOBAYASHI, Kiyu; 桜井, 基博 他
Citation	北海道大學水産學部研究彙報, 18(3), 197-200
Issue Date	1967-11
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/23316
Type	departmental bulletin paper
File Information	18(3)_P197-200.pdf



北海道釧路沖で採集された稀種テングギンザメ *RHINOCHIMAERA*
PACIFICA (MITSUKURI) について

小林 喜雄*・桜井 基博**

Record on a rare long-snouted chimaeroid, *Rhinochimaera pacifica* (MITSUKURI)
off Kushiro, Pacific coast of Hokkaido, Japan

Kiyu KOBAYASHI and Motohiro SAKURAI

Abstract

A male specimen of the long-snouted chimaeroid, *Rhinochimaera pacifica* (MITSUKURI) was collected from a depth of 700 m off Kushiro, a city on the Pacific coast of Hokkaido, Japan on January 10th, 1966. The specimen is 1,060 mm in total length. It has long depressed snout, elongated tail and well developed genital appendage consisting of three parts, i.e. a frontal tentacle, prepelevic claspers and claspers.

The long-snouted chimaeroid was recorded as a new species for the first time by Dr. K. Mitsukuri on April 19th, 1883. It was caught in the Sagaminada which is the part of sea near Kanagawa prefecture, Honshu, Japan.

The present specimen coincides with the description of Mitsukuri's specimen as recorded by Garman ('01) except for one characteristic, namely in the former the snout is depressed, while in the latter the snout was compressed.

The present report is only second record of this species. Both were found near Japan.

テングギンザメ *Rhinochimaera pacifica* (MITSUKURI) は、1895年箕作佳吉博士によって、相模灘で1883年4月19日に採集された標本により初記録された種類である。

標本は1966年1月10日、北海道釧路を根拠とするメヌケ刺網漁船加賀丸に依って、釧路沖の水深700mの海谷部で採捕されたもので、北海道釧路水産試験場に寄贈された。現在は、更に釧路水試から北海道大学水産学部水産資料館に移され、保管されている (F-1568)。

本種は極めて稀しく、箕作 (1895) の標本に基く、Dean ('04), Garman ('04) ('11) 及び田中 ('05) 等の報告がある。従来、北海道周辺からは、疋田豊治氏が1951年に釧路で採集された標本を観察し、目録中に加えている (北海道区資源調査要報, 第3号, 1952)。併し、標本は残されて居らず、また記載もない。従って、今回得られた標本は本種の分布の北限を記録するものであり、極めて重要であるので茲に報告する。本稿を草するに当って御校閲の労を得た北海道大学水産学部教授岡田鶴博士に深謝する。

Rhinochimaera pacifica (MITSUKURI)

テングギンザメ

(Fig. 1)

Harriotta pacifica: Mitsukuri, 1895, 動雑. 7(80), 182-184. Jordan & Snyder, 1901, Annot. Zool. Jap., 3(2/3), 43.

* 北海道大学水産学部水産動物学教室

** 北海道立釧路水産試験場

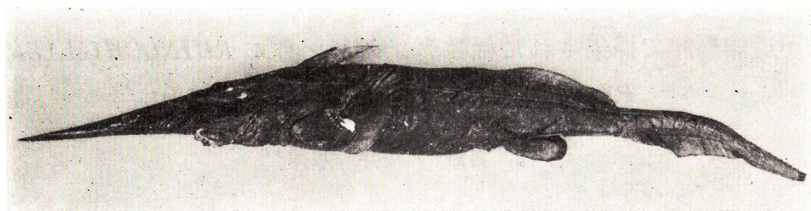


Fig. 1. The long-snouted chimaeroid, *Rhinochimaera pacifica* (MITSUKURI) collected off Kushiro, Pacific coast of Hokkaido, Japan. Total length, 1,060 mm (F-1568).

Rhinochimaera pacifica: Dean, 1904, Jour. Fac. Sci., Univ. Tokyo, **19**(4), 1-20; Garman, 1904, Bull. Mus. Comp. Zool., Harv. Univ. **41**(2), 243-272; 田中, 1905, 動雑. **17**(206), 368~369; Jordan, Tanaka & Snyder, 1913, Jour. Fac. Sci., Univ. Tokyo, **33**(1), 33; Fowler, 1941, Bull. Smith. Inst. U. S. Nat. Mus. **13**(100), 503-504; 松原, 1955, 魚類の形態と検索, 145.

標本は雄で、体各部の計測結果は表1に示す通りである。体は著しく伸長した物と、長く延長した尾を有する。体高は第1背鰭起部に於いて最も高いが、全長に対する割合は表に示す通り10%である。頭長は長い物を有するので全長に対する割合は大きいが、吻長がその80%を占める。物は縦扁しており、その基部に於ける高さは巾の約半分である。眼は小さく両眼間隔の約半分である。

背鰭は2基あって、第1背鰭起部は鰓孔のほぼ上方にあり、基底は狭いが高く良く発達する。また前部に太く良く発達した1棘を有するが、標本では約半分が折損している。第2背鰭の基底は極めて広く、全長の20%余に達するが、低くその最高部に於ける高さは第1鰭長の半分に達しない。胸鰭は良く発達し大きく、また腹鰭も比較的良く発達し、胸鰭の約半分大である。臀鰭はない。尾部は長く延長し、上縁に約34個の棘状突起が1列に並んでいるが、鰭膜は極めて低く、且つ肥厚する

Talbe 1. Dimensions given as percentages of the total length of the long-snouted chimaeroid, *Rhinochimaera pacifica* (MITSUKURI)

Items	Measurement and Ratio
Total length (mm.)	1,060mm.
Distance from tip of snout to 1st dorsal origin	34.4%
" " to anus	57.1%
Length of head	33.0%
" snout	26.4%
Width of snout	4.9%
Depth of snout	2.6%
Interorbital width	3.7%
Diameter of orbit	1.7%
Length of 1st dorsal base	3.3%
High of 1st dorsal fin	9.4%
Length of 2nd dorsal base	20.7%
" pectoral fin	14.6%
" gill opening	2.1%
" clasper	7.1%
Depth of Body	10.0%

(PLATE II, D)。下縁には鱗膜が発達し、末端に達する。

鰓孔は各側1個比較的大きく開孔する(PLATE II, C)。肛門は体の中央より稍々後方に位置する。雄性生殖突起が良く発達し、前額把攪器(frontal tentacle)は眼前部背中線の吻の基部附近にあって、前方に向って膨出し、膨出部は凹部に格納されていて、下面には小棘が密生する(PLATE II, A)。前腹鰭把攪器(prepelvic clasper)は腹鰭前方に左右1対あり、三角片様突起が凹部に格納されている(PLATE II, B)。交尾器(clasper)は腹鰭基部後縁に接して発達し、その長さは全長の7%余りで、先端部が膨大し、小棘が密生する(PLATE II, B)。

上下顎歯は鳥喙状で、上顎歯は先端が稍々鉤状に曲り、下顎歯は平坦で先端は鋭く尖る。外縁は上下顎歯共に平滑で、鋸歯状になっていない。

側線は溝様で、頭部では殊に良く発達する。即ち、吻の両側に各1線、背腹両面に各2線が吻端から頭部に向って発達し、背面では前額把攪器を、側面では眼を、腹面では口部をそれぞれ取り囲む(PLATE I, A, D, G)。鰻幹部では眼後部で合一した吻の背面及び側面のもの1線となって、体側中央の稍々背側寄りを直走する(PLATE I, B, E, H)。尾部では、尾部末端付近で彎曲して腹側に移り、尾端に至る(PLATE I, C, F, I)。

体色は鉛黒色で、背面は濃く、腹面は稍々淡い。特に斑紋はない。

本種は、吻が側扁(compressed)することが、その特徴の1つとして挙げられて居り、箕作(1895)の原記載ではこのような形態に関しては殆んど触れていないが、Dean('04)、田中('05)等では明らかに吻は側扁すると記している。且つ、この特徴はテングギンザメ属 *Rhinochimaera* の特徴とされ、Garman('11)、松原('55)は、吻が側扁(compressed)するテングギンザメ属と、吻が縦扁(depressed)するアズマギンザメ属 *Harriotta* との主たる識別点として区別している。

併し、標本では記述した如く、吻は縦扁型(depressed form)であって、吻の巾は高さより遙かに大きく、大略2倍ある。Fowler('04)の属の索引でも吻の形態をその特徴の1つとして挙げ、テングギンザメ属では“snout compressed”、アズマギンザメ属では“snout depressed”としている。然るに、テングギンザメ属の属の特徴の記載には“snout depressed”としており、索引と記載とは異っている。併し、Garman('01)の属の原記載では“snout compressed”と明記されており、テングギンザメ属の吻は側扁型(compressed form)であることは明らかであるが、この点で標本は異なる。併し、Bigelow & Schroeder('53)では属の索引に吻の形態は取り上げていない。

また標本では尾鰭上葉の鱗膜は極めて低く、且つ肥厚し、下縁に小棘状突起が並んでいる。然るに、田中('05)では、尾鰭上葉は頗る低く、とだけあり、また箕作(1895)の原図にも鱗膜が明瞭に画かれていて、標本とは可成り様相を異にする。併し、Bigelow & Schroeder('53)に示めされている尾部の拡大図とは良く一致した様相を示す。

以上のように、標本はBigelow & Schroeder('53)が挙げている尾部背縁の棘状突起を有すること、歯板が円滑で切縁が真直である等のテングギンザメ属の特徴に一致し、その他各鱗の大きさ等体各部の諸特徴はテングギンザメの記載に一致するが、前述の吻の形態ではむしろアズマギンザメの特徴に一致し、また尾部上縁の棘状突起の様相は箕作(1895)の原図、或は田中('05)の記載及び図とは可成り異なる。これらの相違点に関する検討は原標本との対照によって行われなければならないが、茲では標本の観察結果を記載して、北海道海域からの初記録とする。

文 献

- Bigelow, H. B. & Schroeder, W. C. (1953). Fishes of the western North Atlantic. Pt. II. Sawfishes, Guitarfishes, Skates and Rays, Chimaeroids. Mem. Sears Found. Mar. Res. (1), 1-588.
- Dean, B. (1904). Notes on the long-snouted chimaeroid of Japan, *Rhinochimaera* (*Harriotta*)

- pacifica* (GARMAN) MITSUKURI. Jour. Fac. Sci., Univ. Tokyo, Japan, 19(4), 1-20.
- Fowler, H. W. (1941). Contributions to the biology of the Philippine archipelago and adjacent regions. The fishes of the groups Elasmobranchii, Holocephali, Isospondyli, and Ostariophysi obtained by the United States Bureau of Fisheries Steamer "Albatross" in 1907 to 1910, chiefly in the Philippine Islands and adjacent seas. Bull. Smith. Inst. U. S. Nat. Mus. 13(100), 1-879.
- Garman, S. (1904). The chimaeroids (Chismopnea Raf., 1815; Holocephali Müll., 1834), especially *Rhinochimaera* and its allies. Bull. Mus. Comp. Zool., Har. Univ. 41(2), 243-272.
- (1911). The chismopnea (Chimaeroids). Mem. Mus. Cop. Zool., Har. Univ. 40(3), 81-101.
- 北海道区水産研究所・他 (1952). 北海道区資源調査要報. 第3号 (以東底魚資源調査 No. 1) 1~209.
- Jordan, D. S. & Snyder, J. O. (1901). A preliminary check list of the fishes of Japan. Annt. Zool. Jap. 3(2/3), 1-159.
- , Tanaka, S. & Snyder, J. O. (1913). A catalogue of the fishes of Japan. Fac. Sci., Univ. Tokyo, 33(1), 1-497.
- 松原喜代松 (1955). 魚類の形態と検索. I~III. 1605pp. 135pls. 東京. 石崎書店.
- 箕作佳吉 (1895). どんごめの1新属に就きて. 動維. 7(80), 182~184.
- 田中茂穂 (1905). ギンザメ類. 同上. 17(206). 353~369.

Explanation of Plates

PLATE I. Parts of the long-snouted chimaeroid, *Rhinochimaera pacifica* (MITSUKURI)
magnified.

Dorsal view: A, head; B, trunk; C, tail.

Lateral view; D, head; E, trunk; F, tail

Ventral view: G, head; H, trunk; I, tail

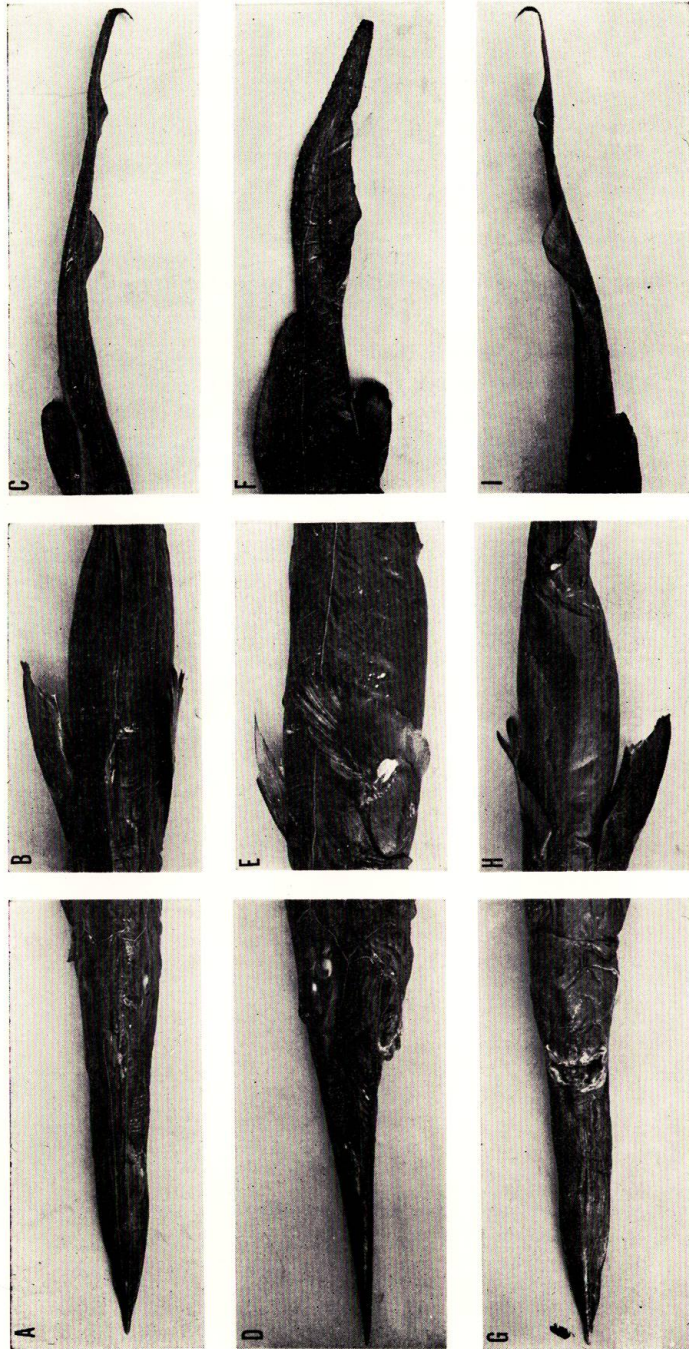


PLATE II, Parts of the long-snouted chimaeroid, *Rhinochimaera pacifica* (MITSUKURI)
magnified.

A: Frontal tentacle (f.t.)

B: Prepelvic clasper (p.c.); Clasper (c.)

C: Gill opening (g.)

D: Tip of caudal fin to show upper marginal denticles (m.g.)

